



年 組 名前

道新のワークシート

江差・姥神大神宮渡御祭 通常開催へ

「やっと祭りができる」

関係者から喜びの声

【江差】370年以上の歴史がある江差町の姥神大神宮渡御祭が8月9～11日、4年ぶりに通常開催されることになった。13台の華やかなヤマ（山車）の巡行や町内に響く祭りばやし、祝い歌「切り声」も戻ってくる。関係者から「やっと祭りができる」と喜びの声が上がった。

「4年分の思いを込めて盛り上げ『江差の祭りはここにあり』と示したい。祭りばやしの演奏技術や所作などの継承のためにも、もう空白はつくない」。祭典協賛実行委の打越東亜夫会長は決意を新たにしていた。17日の実行委総会で20～22年に中止した山車の巡行の再開を全会一致で決めた。山車が沿道の住宅や事業者に立ち寄った際に歌う「切り声」や、引き手に飲食を振る舞うことも規制しないことにした。新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類へ移行したこともあり、実行委には道外の江差出身者から今年の開催の問い合わせが相次いでい

た。昨年とは異なる山車「豊年山」が地域限定で神事などを行わず練り歩く「曳き廻し」のみ行った。豊年山の山田康司頭取は「久々の巡行は楽しみ。3年間のブランクがあるので、しっかりと準備して臨みたい」と語った。

町の歴史に詳しい松村隆さん(96)は「この祭りは子どもから大人まで誰でも楽しめる。『祭りがあるから1年、頑張れる』という人がいるほど生活に根付き、江差を離れた人も帰ってくる。にぎわいが戻るのが楽しみ」と話した。

(米林千晴、宮崎将吾)

2023年5月19日(金)朝刊 函館・渡島・松山版 14ページ (記事は再編集しています)

- ① 姥神大神宮渡御祭(とぎよさい)とは、どのようなお祭りですか。
- ② 「やっと祭りができる」という言葉から、江差(えさし)の人たちのどのような思いを想像(そうぞう)することができますか。
「祭りばやしの演奏技術(えんそうぎじゅつ)や所作(しよさ)などの継承(けいしょう)」や「祭りがあるから1年、頑張(がんば)れる」など、文章中の言葉をヒントに書きましょう。